「おらがチーム」結

ボールを追ってグラウンドを駆けめぐる参加児童たち
（京田辺市草内・一町田広場）

この日、草内の一町田多目的運動広場では、新年度に小学1～6年生となる子供たち30人が2部に分かれ、鬼ごっこで体をほぐしたあと、異年齢が混ざり合ったゲームでパスやシュートを繰り返し楽しんだ。

真新しいボールとゴールは、昨年8月に産声を上げたマッチャモーレ京都山城（㈱京都山城スポーツクラブ）がインターネット上で賛同寄付を募るクラウドファンディングを通じて得た財源を充当。コーチを務めた選手と子供たちの姿を見守った塚本代表は開口一番、「教えない…」と言い切った。

「子供たちの好きを引き出す。地域で子供たちの成長を見守る。気軽に集まってサッカーができる環境を作りたい」とクラブの理念に通じるやりたいことに触れた。

今後、京田辺のほか、城陽、木津川市でも毎週開催に意欲を燃やす。「お金を払いスクールに通えば一定水準に達する」との認識の一方、完全無料で用具も揃え、子供たちを迎える。「ただサッカーがやりたい、やってみたいという気持ちだけで十分」と参加を呼び掛ける。

「188人の賛同があり、ゴール、ボール50球を購入できた」「学童的な位置づけ」と続け、「スポーツを楽しめる環境づくりに努め、明るい地域社会を未来に」とクラブのビジョン体現に挑む。

そのための労を惜しまず、地元自治体と連携を目指し、学校グラウンドの利用を働き掛け、城陽、木津川市で好感触を得た。クラファンのほか、地域に愛されるクラブに成長するため、パートナー代表はオンラインサロンの会費なども資金に充てる。

来月、太陽が丘リーグ戦発進

マッチャモーレは2回にわたる選手選考会を経て当初の応募80人から26人で構成。太陽が丘で4月10日（土）、所属する京都府リーグ4部の初戦を迎える。

この日、子供たちと盛んに笑い交流を深めた東洸大郎選手（31）＝宇治市＝、上島幹央（みきひろ）選手（22）＝城陽市＝もトレーニングに励み、調整に余念がない。

参加した児童のうち藤井創大（そうた）く

地域にわたる浸透を狙う。

京田辺特産の「えびいもスープ」

うま味あふれるお土産品

27日マルシェで販売開始へ

地元特産で高級食材として知られるえびいもを使った「えびいもスープ」が完成し、京田辺市のブランチ松井山手で27日（土）に始まるラブ京田辺マルシェで販売される。

市内の多業種が連携する「京田辺農福観地域づくり協議会」（岡本和雄会長）のうち、商品開発部会が進めて

えびいもの産地・京田辺を全国にアピール

いた「新たな土産品開発」が成果を生んだ。

しょう―と、1年間を掛けて、農福連携センター「さんさん山城」と料理研究家・廣江佳子さん（クッキングアトリエ）、日本調味食品㈱で製品開発を進め、化学調味料や着色料を使わない無添加のレトルト商品「えびいも太郎が大好きな えびいもスープ」（150㌘・税別500円）が誕生した。

商品開発には、府の農福連携応援補助金を活用。さんさん山城で栽培収穫した地元産えびいもを使用する。同部会長でさんさん山城の藤永実センター長は「食感はまろやか。えびいも独特のうま味を出すために試食を重ねた」と納得の出来栄えになるまで、えびいも同様の粘りを発揮した。

ブランチ松井山手のマルシェでベールを脱ぐ。27日（土）は販売・試食がある。28日（日）は販売のみ。29日（月）からさんさん山城で販売を開始し、今後はホームページでも購入できるようにする。問い合わせは同☎39-7113まで。

新たな京田辺のお土産にと期待が高まる「えびいもスープ」とパッケージ（さんさん山城）

・桃子さん・楠ちゃんは3月3日出生

慶弔用菓子の御用は
能登椽 稲房安兼へ
宇治市平等院表参道
☎21・2074

月7日出生
【井手町】
△井手・東山竜也さん・珀翔ちゃん

ハッピーファースト　毎月1日は　1,100円